

「2010年度秋学期授業を振り返る」 ～授業参観の結果を参考に～が開催されました

実施報告

日時: 2011年 5月16日(月) 11:35 ~ 12:10

場所: 東海大学湘南キャンパス

8号館3階プロジェクト会議室

司会: 崔 一英(チャレンジセンター教授)

- 内容:**
1. 「集い力Ⅲ(演習B)」について報告
岩田伊津樹(チャレンジセンター教授)
 2. 「成し遂げ力演習B／Ⅲ」の授業について報告
堀本麻由子(チャレンジセンター講師)
 3. 「電気電子工学基礎実験」の授業を報告
崔 一英(チャレンジセンター教授)
 4. 質疑応答

「集い力Ⅲ(演習B)」について

実際に3Dテレビを教室で見ながら、その仕組みを学ぶ内容だった。江ノ電が江の島から鎌倉へと走る映像を専用のメガネをかけて見た学生たちは、「目が疲れる」「気持ちが悪くなる」などの感想を述べていた。教員側は「目が疲れるのではなく、脳が疲れるのだ」とその理由を説明していたが、和気あいあいとやり取りしているのが印象的だった。その後、グループごとに調べてきたことをまとめて文書化する作業に移った。

参考になったのは、まず、授業内容をあまりたくさん詰め込まないということ。先週やったことを復習しながら進めてゆき、そのペースもゆっくりで丁寧だった。さらに途中、作業的な時間を入れることで学生たちを飽きさせないことも重要なことだと再認識した。

そこで、春学期から自分の授業でもグループ化と作業的な時間を入れてみた。作業としては、議論の前に新聞の記事を読ませることにした。「家で読んで来い」というと、学生たちは読んでこないためだ。また、1人1人だとなかなか意見をいわないが、グループで議論した後にグループとして発表させると意外と活発に意見を述べることもわかった。

岩田伊津樹(チャレンジセンター教授)



「成し遂げ力演習B／Ⅲ」の授業について

「時限をもったチームを動かす」をテーマに、時間的な制約の中で作業を行うということがどういうことなのかをチーム演習を通じて模擬体験していた。

コミュニケーションのいいグループほど作業が早く、時間内にやるべきことができていた。一方、あまり会話がないうるグループは、講師の指示を理解していなかったり、お互いに何をやっているか分からなかったり相談もしていなかったりで作業が遅れがちになる傾向がみられた。

また、グループで話し合った後の全体発表が大切だと再認識した。お互いが何を成果だと考えているのか、多様な考えを聞き個々のふり返りを共有することで教室全体で学びを豊かなものにできると考えた。授業のねらいやテーマを明らかにして学生に示し、授業の最後に確認してゆくことの重要性を感じた。

堀本麻由子(チャレンジセンター講師)



「電気電子工学基礎実験」の授業について

授業方法が変わったと聞いていたが、取り上げるテーマ数を半減し、その分レポート指導を重点的に行うようにしていた。以前は、毎週1テーマをこなし、毎回のレポートも手書きで30-40ページと非常に厳しい内容だったが、学生にとっては消化不良ではなかったかと思う。たとえば回路を組むという時も、自分で考えてというより、ただはめ込むだけだったのではないかと。

実際に学生が実験装置を使って結果を出してゆくのだが、うまくグループ内でコミュニケーションが取れているところは、結果も間違いがないということが学生たちにも理解できる。こんなところも、以前は間違っただけデータが出てもそのままだったのではないかと。

崔 一英(チャレンジセンター教授)



学生たちは、実験の翌週の授業で教員の指導を受けながらレポートを完成させていた。以前は家で書いてきたものを集め、ただ採点して返すだけだった。今回見たような丁寧な指導をすれば、レポートや報告の書き方も身に付くし、学生には考える時間もできる。テーマが少なくなったとしても学生に対する教育効果は上がっていると感じた。

質疑応答

Q. 何人くらいのグループにしているのか。

A. 岩田先生：環境ジャーナリズムだと、6－70人の授業ですが、それを6－7人の10グループに分けました。時事問題研究でいうと、全体が30人ちょっとのクラスなので、その場で5－6人のグループに分けて議論させています。

A. 崔先生：70人くらいのクラスを15，6人に分けて1人教員がつきます。実験は4人グループです。技術職員もつきますし、ぜいたくな授業です。テーマを減らしたのですが、A評価が77%という良い結果でした。

Q. (岩田先生の参観した授業は) 理系だけの学生ではないのですね。

A. (この授業を担当した岡田工准教授) 理系の学生だけではありません。より興味を持ってもらうというスタンスでわかりやすい授業を心掛け、興味をもってその先を勉強してもらうという考えです。